

東日本大震災体験談

## 早めの避難にまさる防災なし

体験	被災した状況について
津波警報について	住民の避難状況について
津波襲来及びその後	自宅と近隣の状況
避難場所に於いて	避難所の生活状況
仮設住宅について	仮設住宅の生活状況
ボランティア活動	助けられ・励まされ
自宅介護者のその後	要介護者の避難生活
復旧・復興のその後	個人住宅・復興住宅の生活

被災した仲條邸



いいおか津波語り継ぐ会 会長 仲條 富夫

東日本大震災あの日、「何がおきたのか」

平成二十三年三月十一日、午後二時四十六分、激しい揺れ、真っ先に思い浮かんだのは東海地震、テレビをつけると東北沖とのこと、その間弱くなつてまた強く揺れ、長く揺れていたのを思い出します。誰もが感じたと思う恐怖感、これは。津波が来るとおもつた、海岸地域で皆感じたと思う。防波堤から五十メートルくらいの所に建つ我が家、二階に駆け上がり海を見ましたが特に変化はなかつた、二時五十分頃九十九里沿岸に予想される津波「二メートル」、三時十四分に大津波警報発令「防災無線」がよびかける、直後茨城沖のM7.6の地震。筆筒の上のものが倒れ散乱する。近所の皆さんは、ほとんどが避難所に行きました。我が家では寝たきりの母がいて、避難を模索するも結論がでずにいた、堤防は四メートルの高さがあり、何とかしのげると思った。午後三時四十分頃に最初の津波が堤防をこえてきた、五十センチくらい。

「五十二年前に経験をしたチリ津波くらいの感じだった」、自宅まえ旧国道126号まで押し寄せてきた、最初の津波より一時間くらい経過して、押し寄せた津波は堤防を越えてなかったのでそれぞれが判断をして、ある人は家に貴重品を、ある人は着替えをと家に戻った。私は高齢者一人暮らし宅を見回りたいと思い自転車で、避難所のわきを通り途中何人かの家を見回り港の見える所まで出てきた。そこで信じられない光景を目にする「港に水がないその先までも」これは大変なことになる。自転車の速度を上げ、港脇の道路を通り自宅へ向かう、途中知人がいて、第一波の津波で浸水して夫婦で清掃をしていた。お互い大変だよね、声のかけ終わらぬ中、周りの人たちの悲鳴。振り向くと東大堤防の上を真っ黒な魔物のような津波、それぞれに近くの建物に逃げ込む人、車で逃げる人。私は津波が堤防と並行して、私の行く方向だったので大丈夫かなと思ひ。津波と競うように家路に急いだが、津波が匝瑳方面に届くと思えた瞬間に、こちらに向かってきた、急いで堤防を降り、県道を横断、家まであと少し、自転車で飛び乗りペダルに力を入れて踏み出そうとした瞬間に堤防をこえてきた津波に引き倒された。ジェットスキーのように自転車ごと一緒に押し流されて自宅脇の電柱に叩きつけられ瞬間立ち上がった、自宅二階で妻も息子も、私の流されている様子を見て、必死に声をかけていたが、私には届かなかった。後で聞いたたらスローモーションのように親父が流され、顔の見えていたときは大丈夫と思ったが津波にのまれた時は最悪を覚悟したそう。一方、介護をしている妹と母にも津波が追っておりガラス戸をぶち破り我が家の中へ波が流れ込んだ。運よくベットごと浮き上がり天井を突き破った。

引き波で家が潰され水もかぶらずにハりに挟まった母、六時一分に救助を依頼するも継続して押し寄せる津波は八時頃まで押し寄せた。救助されたのは八時四十五分頃、母も妹も無事でした私といえば津波に流され必死にもがきながら、薄れていく意識の中で無意識にだした左腕が近くの魚屋のサッシ枠に届いて、体ごと叩きつけられ引っぱり顔が出、上のほうから手を離すなーよ、の声、振り向けば逃げ遅れた知人の声。瞬間なぜか涙が出た、水のひききらぬ中、瓦礫の上を歩き家に向かう、あたり一面真っ暗な中、何故か外灯に明かりが、よけて接触した瞬間、感電、電気ショック。笑えない話だが・・・・

「正気に戻った」途端に寒さと恐怖のため、歯の根も合わぬくらいに震えていた。傾いてしまった我が家、二階へ。見ると生後五ヶ月の我が家の番犬ポチ、私同様震えていた。下着を変え低体温になる中、ポチを抱いて落ちてから避難所に向かう、私は流された時の濡れ靴、妻も妹も息子も裸足、みかねた近所の方に靴やサンダルをいただき、人の情に涙する。

一年が過ぎた今、散歩するポチが25キロになっても抱っこしろと飛びつくのには閉口します。・一夜明けて我が家に戻って見ると、無惨にも変わり果てた街並み言葉もありません、亡くなった方の、ほとんどが顔見知り中には消防団と一緒に活動した方もいますし。

後期高齢者一人暮らしの方も何人かいます。津波で亡くなった方は旭市で13人、行方不明2人そのうち飯岡地区が、ほとんど、とっていいくらい集中しています。津波の寄せた海岸の形状にも原因はあると思いますが、それ以上に最初に寄せた津波が三時四十分頃、小康状態があつて大津波が寄せたのが五時二十分、JAの時計が五時二十六分をさして停止、私の家の前、旧国道126号で2メートル60センチ位の水位です。

今回のタイムラグが大きな犠牲者をだしてしまったか、皆んなで考えていただきたい、しかもその、ほとんどの方がチリ津波を経験した方たちです。もちろん私も決して津波を甘くみたくわけでは、ありません。最初の津波警報が2メートルその時点でほとんどの方が避難した。

私の家族同様に寝たきりで自宅介護の方を抱えておられた方は悩んで、いたと思います。

最初の津波が押し寄せた時には、川沿い、海岸近くの地域はパニックになり、避難所も騒然として、なかなか詳しい情報が入って来ない、そこで家の確認やら着替え、貴重品、等で津波にのまれたり車ごと流されたり、という状況がありました。

避難所で二ヶ月その間「天皇陛下、皇后陛下」大相撲の横綱をはじめとする力士達から「あたたかいお言葉」励ましをいただき五月十八日より応急仮設住宅で暮らしています。

みなさん復旧復興に向けて進んでいます。

全壊住宅336、大規模半壊432、瓦礫11万1千トン、瓦礫の処理は、ほぼ終わり飯岡地区で全壊して元の所に再建中、含めて18棟くらいの状況です。

最近になって房総沖に2活断層南北に長さ160キロ、300キロ、元の場所に再建できたが、心中穏やかではありません。ひるがえって考えれば「津波に限って言えば早めの避難」物に拘らずに早めの避難する事が減災、防災の一番近道です。

古い話ですが、当地を襲った元禄津波そして五十二年前のチリ津波それでも私たちの先祖はがんばって、前向きに進んできたおかげで今があります。

私たちも、めげる事なく未来へつないでゆきたい「絆」を信じて。

繰り返しになりますが、早めの避難、冷静に情報を得て行動する事を心がけましょう。

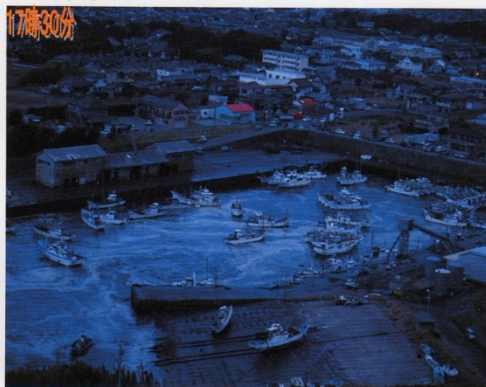
皆様に来て見て知っていただいで、これから起こるかもしれない震災に対して少しでも参考になればと、いいお津波語り継ぐ会として語り継ぎたい。







2011年3月11日飯岡漁港



大津波は渦潮となり旋回する漁船。

被災地の住民たちは、恐怖の夜を過ごすことになった。

飯岡小学校避難所でテレビの情報を聞き入る避難住民。不安な夜を過ごすことになる。その後、仮設住宅ができるまで避難所となる。







忘れまい  
あの日のことを...



語り継ぐいいおか津波の集い

2013. 3. 11 JAちぼみどり旧飯岡支店跡地広場





# 南海トラフ巨大地震 被害想定

南海トラフ地震と元禄地震を  
基にした津波高の想定

	南海トラフ	元禄地震
九十九里・外房	鴨川市	8 7.8(7.3)
	勝浦市	6 8.3(8.5)
	御宿町	8 7.8(8.1)
	いすみ市	9 9.6(9.9)
	一宮町	7 7.7(7.9)
	長生村	8 8.0(8.1)
	白子町	8 8.1(8.2)
	大網白里町	6 5.8(5.9)
	九十九里町	5 5.3(5.3)
	山武市	6 5.8(5.8)
	横芝光町	5 7.5(7.5)
	匝道市	5 7.8(7.8)
	旭市	5 8.3(8.3)
	銚子市	9 5.0(5.0)
内房	富津市	5 4.5(4.6)
	鋸南町	5 4.5(4.7)
	館山市	11 14.7(10.9)
	南房総市	9 11.7(7.5)
東京湾内湾	浦安市	3 1.4(1.6)
	市川市	3 1.4(1.5)
	船橋市	3 1.4(1.5)
	習志野市	3 1.3(1.4)
	千葉市美浜区	3 1.5(1.6)
	千葉市中央区	3 1.6(1.7)
	市原市	3 1.8(1.9)
	袖ヶ浦市	2 1.5(1.6)
	木更津市	3 2.0(2.1)
	君津市	3 1.7(1.8)

※単位はm。元禄地震の想定は県が4月に発表、カッコ内は地震による陸地の隆起分を差し引いた数値

## 館山に11メートルの津波

### 九十九里・外房 8メートル級

3.11から

内閣府が二十九日に公表した南海トラフの巨大地震による被害想定で、最大クラスの津波が発生すれば県内にも大きな被害が及ぶことが明らかにになった。人的被害は津波によるもので、館山市の一一いをははじめ、九十九里・外房地域には八メートル級の津波予測が示された。

最大クラスの津波の発生頻度は低いとされるものが増している。

南海トラフ地震でも高い津波予測が示された九十九里浜や南房総の沿岸自治体は地震直後の避難場所の確保など、どこに力を入れている。今回九十九の津波予測

が示された市は、二ヶ月に津波緊急避難地マップを作成した。従来指定避難場所に加えて、地震直後に二即座に取りあえずそこに逃げてもらう(担当者)と

果内の地震の揺れは、五メートルを超える震度4以上の強で、津波は県内に三十六メートルに到達する。基本的なケイ

七位置付している一時避難場所を、市内で百二十カ所を決めた。津波警報が解除後に指定避難場所が避難し、二想定を越えて対応できるようにしたい(同)と話す。

# 南海トラフ全域調査へ

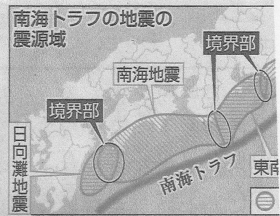
## 海底断層 境界部重点的に

文部科学省は十六日まで、巨大地震が想定される南海トラフ全域で来年度から海底の断層調査を始める方針を固めた。東海・東南海・南海の三つの震源域の境界部を重点的に調べ、地震が連動する確率を予測して防災に役立てる。調査は五年間の予定で、二〇一七年度予算の概算要求に初期

費用として、百億～百五十億円を盛り込む。

これまで文科省などは三つの震源域を個別に調査してきたが、東日本大震災で複数の震源域が連動して巨大地震となった教訓から、隣り合う震源域の境界部に着目した。

調査には海洋研究開発機構や防災科学技術研究所が参加する。今年三月に就航した海洋機構の調査船「かいめい」から海底に音波を照射して、反射波から海底



下にある断層の位置や長さ、方向を特定。その広がりや立体的に把握し、コンピュータのシミュレーションなどで連動する確率を推定する。

二つのうち最も西にある南海地震の震源域の西側には日向灘地震で想定される震源域もあり、これらの境界部も調べる。

南海トラフは東海沖から九州沖に延びる溝状の海底地形で、海側のプレート（岩板）が陸側のプレート（岩板）の下に沈み込み、ひずみが蓄積。過去にマグニチュード（M）8級の地震が繰り返し発生している。政府の地震調査委員会は最大級の地震として、M9級の巨大地震を想定している。

製作 いいおか津波語り継ぐ会  
写真協力 旭市観光写真ボランティア会  
旭津波被災者支援の会